

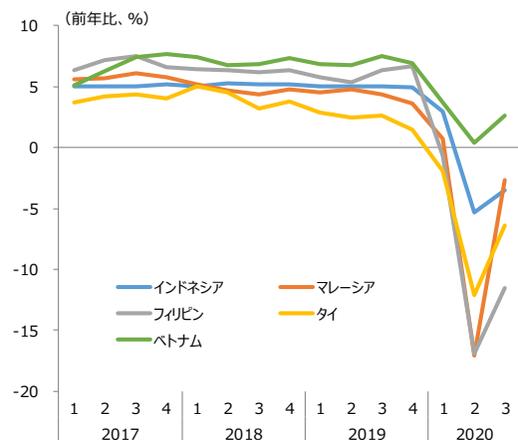
ASEAN

GDP (2020年7-9月期)

長引く防疫措置の影響から内需回復は道半ば

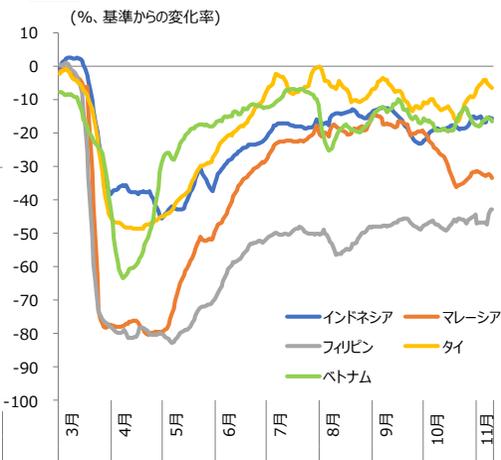
政策・経済センター
橋本琢磨
03-6858-2717

1 実質GDP成長率

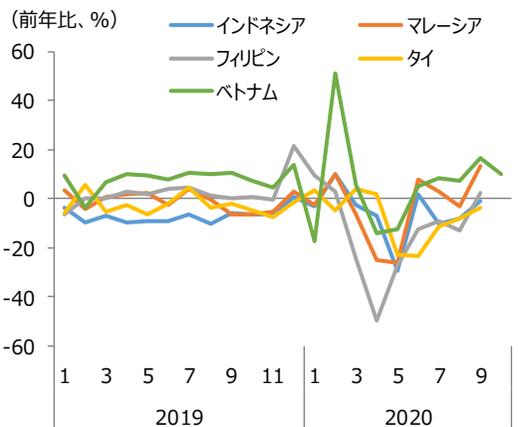


出所：CEICより三菱総合研究所作成

2 外出行動 (小売・娯楽)

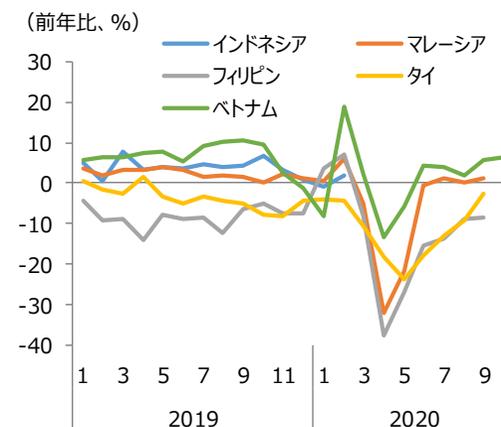
注：後方7日移動平均。直近日は11月10日。
出所：Google「COVID-19 Community Mobility Reports」より三菱総合研究所作成

3 輸出動向



出所：CEICより三菱総合研究所作成

4 鉱工業生産



出所：CEICより三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 7-9月期の実質GDPは、ベトナムが前年比+2.6%と前期から成長率が持ち直した（図表1）。一方、他の4カ国は減少幅は縮小も依然マイナス成長が続いている。
- フィリピンは同▲11.5%と2期連続で2桁でのマイナス成長となるなど、内需の低迷が続いている。タイは同▲6.4%と前期から減少幅は縮小したものの、フィリピンと同様に3期連続のマイナス成長となった。インドネシアは同▲3.5%となり、98年のアジア通貨危機以来の2期連続のマイナスとなった。感染拡大の続くマレーシアでは同▲2.7%と、前期から大幅に減少幅が縮小するも、2期連続のマイナス成長となった。

基調判断と今後の流れ

- ASEAN地域では、経済活動の再開に伴い7-9月期は総じて緩やかに持ち直すも、感染状況の違いなどから、経済活動の回復に各国差が生じている。
- 足もとで感染が広がるマレーシアでは、首都圏地域などで10月14日より地域間の移動制限を含む活動制限を行っており、同国での小売・娯楽に関する外出行動抑制率が再び強まるなど、小売や外食業界への影響が出ている（図表2）。インドネシアやフィリピンでも部分的な活動制限措置が講じられ、消費など内需の落ち込みが続いている。
- 輸出動向をみると、ベトナムは10月の輸出が前年比+12.2%と、9月同+16.6%に引き続き高い伸びとなっている（図表3）。特に中国向けが10月同+14.9%とけん引している。その他の国でも、タイでは9月同▲3.9%とマイナス幅は縮小傾向にある。
- 生産動向について、経済の回復で先行する中国向け輸出に関連した生産活動は回復基調を強めるだろう。ベトナムでは、10月の生産指数は前年比+6.6%と5カ月連続のプラスとなっている（図表4）。
- ASEAN5の経済見通しについては、20年の成長率を前年比▲3.6%と予測、08-09年の世界金融危機を超える落ち込みとなろう。中国向け輸出に関連した生産活動を中心に緩やかな景気回復基調を辿るも、消費など内需の回復の遅れが足かせになると見込む。
- ASEAN諸国など15カ国は11月15日、東アジア地域包括的経済連携（RCEP）協定に署名した。RCEP発効によりASEAN域内だけでなく日中韓などを含めた巨大自由貿易圏が形成すれば、関税撤廃や市場アクセスの改善等を通じASEAN経済にプラスとなろう。